



### 山行報告

#### 高水三山(6月6日)

参加者 会員(障害者4名、健常者21名)、  
会員外(健常者3名)

先週の十文字峠で天気予報が外れ、素晴らしい天気にも恵まれたことから、今回もそれを期待したが、残念ながら雨だった。それでも、軍畑に向かう電車の中でほとんど雨も降らず、空が明るくなり期待が持てたが、駅に降り立ったら、小雨が降っていた。雨の様子を見ながら、行けるところまで行ってみることにする。



ユキノシタ

下見をしたときと同じように、川にはカワトンボが舞っていた。ユキノシタが岩の上一面に咲き、美しい。高源寺から急な車道を登る。民家の石垣に咲いたサボテンの花が、真っ赤できれいだった。

登山道に入り、堰堤の急な階段を登る。そし

て、次第に岩混じりの道を登りはじめる。



高水山に向けて登る

コアジサイが薄紫や白い花をつけて迎えてくれる。岩混じりの道を頑張ると、尾根に出る。少し上の6合目の標識があるベンチ(テーブルかも?)で休憩する。このころは、雨も止んできた。遠くで、ツツドリの声が聞こえた。

尾根を高水山目指して登っていく。常福院の東屋と鐘の下で休憩し、昼食にする。キビタキの声が聞こえたようだが、はっきり断定することはできなかった。昼食後、高水山に登り、そのまま岩茸石山を目指す。登山道が雨に濡れて、滑りやすいので、注意が必要だ。

歩きやすい道を進み、岩混じりの斜面を登りきると、そこは今回の最高地点、岩茸石山の山頂だった。普通は人であふれる人気の山だが、今回は雨のためかほとんど人に会うことがなかった。これも、雨の日の山の特権でしょう。

岩茸石山からは、また岩混じりの少し急な道を下る。しかし、それもすぐに終わり、あとは歩きやすい道となる。途中、伐採後に咲いたコアジサイの美しいところがあった。岩場の急登を頑張ると、最後の山頂、惣岳山だ。

少し休憩し、御岳駅を目指して、関東ふれあいの道を下る。意外と長い道を下り、御岳駅に

ついて、濡れた服を着替えて、電車に乗り込んだ。

## 九重山(6月11日～13日)

参加者 会員(障害者5名、健常者12名)  
会員外(健常者1名)

集まって、歌を歌い楽しく過ごした。



6月11日

今日は台風が九州の近くを通過するため悪天を覚悟していたが、福岡空港から九重山登山口にバスで向かっている途中で青空まで顔を出し、少し期待が膨らんできた。登山口に下りると、山の方は雲に覆われているが、雨は降っておらず、まずまずの天気だ。

熊本から参加したOさんと合流し、雨ヶ池越経由で法華院温泉を目指す。ホオジロやセッカの声を聞きながら湿原を行く。さらに鬱蒼とした緑の森に入っていく。ここは自然観察路と名前が付いているだけに、緑が豊富で、野鳥たちの歌声もはっきりなしに聞こえてくる。すでに午後2時なのに、ホトトギスやオオルリなどがさえずっている。ただ、九州の野鳥の知識が足りないこともあり、今まで聞いたことのない声が多くあった。ただ、中には、かご抜け鳥のソウシチョウもいたのではないかなと思う。

雨ヶ池が近づく頃、ミヤマキリシマを初めて見る事ができた。濃いピンク色が美しい。雨ヶ池は、どこにあるのか分からないまま、通り過ぎてしまった。坊がつるに向けて下りはじめのころ、小雨が降り出した。雨具をつけ、滑りやすい道を坊がつるに下る。坊がつるは、アセビが多く、霧に覆われて幻想的だった。林道を行くと、すぐに法華院温泉が見えてきた。

手続きを済ませ、温泉に入ってビールで乾杯をする。おいしい料理を食べ、部屋にみんなで

6月12日

昨晩は雨も降っていたが、起きてみると、良い天気だった。明け方、ホトトギスがにぎやかに歌い、トラツグミの音も聞いた。朝食を取り、不要な荷物を小屋に預かってもらい、大戸越経由平治岳(ひいじだけ)を目指す。さわやかな坊がつるを横断し、ぬかるみの道に入っていく。登山道の入り口には、一人一石運動と言うことで、登山道のぬかるみに石を運ぶための石が置いてある。何人かが持ったが、歩き出してすぐに置いてしまったようだ。

このコースも多くの野鳥の音がする。ぬかるんだ道を登っていくと、ぬかるみを避けるためにできた道が、いろんな方向に伸びている。私たちも、できるだけ歩きやすい道を探して登っていく。登るにしたがって、春ゼミの大合唱になってくる。ものすごい数の蝉がいるようだ。

かなり登って、ようやく大戸越に到着する。ここから平治岳が見えるが、ミヤマキリシマは、点々とある程度で、山がピンクに染まるほどはなかった。今回は少し時期が遅かったようだ。ここで、平治岳に登らない2名の方に待っていただき、平治岳の山頂を往復することにする。



登りのコースタイムが25分だったため、たいしたことはないと思ったが、途中でロープを張った岩場があるなど、なかなかの急登だった。しかし、登るにつれてミヤマキリシマが増えてくる。所々ピンクに染まり美しい。

山頂手前のピークに着いたところで、みなさんと相談し、大船山は時間的に無理と判断し、平治岳を往復して、来た道と同じ道を下ることにする。平治岳頂上付近は、ミヤマキリシマが美しかった。また、シロドウダンの花も時々咲いていた。

大戸越に下り、待っていた二人に同じ道を帰ることを伝え、了解していただく。少し早いけど昼食を取り、下山にかかる。滑りやすかったため手間取るかと思ったが、意外と早く下に下ることができた。法華院温泉に戻って、預けた荷物をもらって、すがもり越を目指して登りはじめる。下ってくる人と何度か行き交い、ゆっくり登っていく。ようやく登りが終わり、北千里浜の一角に立つ。目の前の硫黄山が噴煙を上げている。平坦で歩きやすい北千里浜を歩き、途中から岩混じりの道を登りにかかる。一登りですがもり越に到着する。ここは、多くの人たちが休憩していた。

人の増えた道を九重山登山口を目指して下る。林道に出て、さらに近道を下り、再度林道に出て、九重山登山口に到着。やまなみハイウェイを越えて、コスモス荘に入る。今日、東京から来たYさんとここで合流する。

明日、久住山に登る人と登らない人に分かれ、

登る人は朝食を弁当で頼み、朝5時にタクシーに来てもらうよう予約する。

6月13日

今日は、朝早くでなければならぬが、男3人で寝ていた連中は、タクシーが来るまで寝ていて、Tさんに起こされてしまった。この3人の中に私もいた。(^^)

タクシーに乗って、牧ノ戸峠に到着。峠を5時20分に出発する。登山道は、コンクリートで固められ歩きやすい。こちらのコースは、雨ヶ池越や平治岳への登山道と違って、乾燥していて、全体的に歩きやすいコースだった。

今日は、雲一つない快晴だ。沓掛山の手前で、阿蘇山なども見えてきた。名前は分からないが、遠くの山もくっきりと見えていた。

岩場の沓掛山を通過し、朝食とする。ここからは、歩きやすい道だ。登るにつれて、ミヤマキリシマの花も見られるようになってきた。平



坦な西千里浜を過ぎ、岩混じりの道を越えると久住分れの避難小屋の前に出た。ここでトイレをすまし、最後の久住山の最後の登りにかかる。久住山は、左側から回り込むように登る。

美しく咲くミヤマキリシマを見ながら頑張ると、ほどなく山頂に到着。山頂からは、近くの九重連山の山々をはじめとして、遠くの山々やふもとがよく見えた。記念写真を撮影して、下山にかかる。

同じ道を引き返すが、若いNさんが星生山(ほっしょうざん)に登りたいと言う。彼の足

ならずぐに追いつくので、ひとつ走り行ってもらう。私たちは、先にゆっくり下ることにする。ホオジロがすぐ近くの梢でさえずり、カメラマンのモデルとなっていた。私も近づいて撮らせてもらう。

扇ヶ鼻の分岐を過ぎ、広い平坦地で休憩していると、Nさんが早くも追いついた。素晴らしい

## 葛葉川本谷(6月20日)

参加者 会員(健常者5名)

平地は青空も見え、まずまずの天気だが、山の方は重い雲がたれ込めている。今日の天気が少し心配だが、今日一杯は何とか持つだろうと思ひ、葛葉川に向けて、舗装道路を登る。とにかく、台風吹き込む南風の影響で、蒸し暑い。

桜沢橋を越え、葛葉の泉近くの東屋で足ごしらえをする。近くでオオルリがいつまでも歌っていた。



心地よい冷たさの水の中を、ひたひたと溪流シューズで漕ぎ抜いていく。小さな滝をいくつか越えたが、どれがF1だったのか横向きの滝だったのか、良く分からないまま進んでしまう。水流に沿って、水しぶきを浴びながら登る滝は、涼しさと程良い緊張感で、心地よく登れる。

一つだけ滝を高巻いたが、これが板立の滝だったのだろうか？すでに記憶が薄らいでいる。林道が見えた曲がり滝の下で昼食タイムとする。

い快足だ。沓掛山の岩場を越え、コンクリートの道を下ると、牧ノ戸峠に到着。別行動の方たちと合流して、昼食とする。

豊後中村に向かうバスの中では、みんな熟睡していたようだ。予想以上の好天に恵まれ、楽しむことのできた3日間でした。参加者のみなさん、お疲れさまでした。

今回が初めてのNOさんも、すっかり沢にはまりそうだ。Fさんは、久しぶりの沢らしいが、バランス良く登ってくる。すでにいくつかの沢を経験しているNAさんには、少し物足りなかったかも知れない。毎月2回くらい沢に通っているHさんは、今回は沢の案内人だ。

橋を越えて、小さな滝を気持ちよく越えていく。NAさんが取ったルートは、水しぶきをも



るに受けるシャワーライミングのルートだ。FさんとNOさんも同じところをびしょぬれになって登ってくる。

チョックストーン滝を越え、さらに行くと、いよいよ富士形の滝だ。ここでは、今回初めてロープを出した。滝の右側にシュリングがぶら下がっていたので、そのルートに登る。みなさん、すいすいと登ってくる。ロープをしまい、二俣で左の沢に行く。トイ状の滝は、前のパーティーが登ったように水流に沿って登る。もう水流が消えそうだったので、水を満たす。

ガレ場となり、左の小さな尾根に上がって、登山道を目指す。14時、登山道に無事到着。

ここで着替えたり、靴を履き替えたりして三ノ塔を往復する。山頂付近は、濃いガスが多い強風が吹き荒れ、台風が近いことを知らせている。避難小屋で休憩し、下山にかかる。

## 利尻山・礼文島(7月1日～4日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)  
会員外(障害者1名、健常者1名)

7月1日

朝方雨だったが、私たちが稚内空港に着く頃は、すでに晴れていた。波が高くフェリーは揺れに揺れたが、フェリーの中からこれから登る利尻山が、堂々と海から標高差1700mでそびえ立っていた。



フェリーから見えた利尻富士

フェリーを降り、民宿に電話をして迎えに来てもらう。クーラーが入っているのではないかと思うくらい、肌寒い。民宿に着くと、すぐに夕食となり、バスで利尻富士温泉まで連れて行ってもらう、さっぱりとした。ただ、ちょっとあわただしい。民宿で乾杯をして、明日の英気を養い、早めに床についた。

7月2日

今日は、利尻山を目指す日だ。3時過ぎに起きて、4時に民宿の車で送ってもらう。昨日は、4時に出たいと言ったら、「何、4時？」と、少しにらまれたが、今回泊まった人たちの中で

急な道から、なだらかな道へ。そしてコンクリートの足が痛くなる道を経て、大倉に到着した。

は1番はじめに送ってもらうことになった。

車に乗って走り出すと、すぐに日の出となった。北国の朝は早い。

鴛泊コースの登山口の利尻北麓野営場で民宿からもらった朝食を食べ、出発する。コンクリートに固められた道を少し歩くと、甘露泉に到着。ここから登山道となるが、まずは滑りやすいながらも、傾斜の緩い道を登っていく。

4合目は、野鳥の森だ。傾斜は次第に増してきて、5合目を過ぎたところから、ふもとの町や礼文島が見えるようになる。6合目は、景色の素晴らしい展望台だった。遠く、樺太まで見えていた。

傾斜はさらにきつくなり、七曲がりの7合目に到着。先頭に行くYさん、Oさん、NRさんは、ここで休まず、さらに先に行ったようだ。私たちも先を急ぐ。

第2見晴台に着くと、ここにも先頭グループはいなかった。きっと8合目の長官山にいるのだろう。私たちは少し休憩して、長官山を目指す。

長官山で、全員合流する。長官山からは、利尻山の山頂が、ひときわ高く急傾斜でせり上がっている。ここで、MさんとNTさんが、避難



真っ青な海を見ながら9合目付近を登る

小屋までにすると言う。行っていけないことはないが、みなさんに迷惑をかけまいとする配慮に感謝する。

山頂を目指すグループは、避難小屋からさらに登り出す。9合目付近では、エゾツツジやミヤマアズマギクが咲いていた。9合目を過ぎると、道は小さな火山岩がガラガラと積み重なっていて、足下が滑りやすくなる。また、風が非常に強くなり、目にゴミが入って痛い。上から、大勢の人たちが下りてくる。私は、Oさんをサポートしながら登っているの、行き交うのに少し苦労した。ガレた道を登り、岩溝のようなところを過ぎると、山頂が目の前に迫ってきた。



祠のある山頂にて

ほぼ予定時間の12時5分、無事に山頂に到着した。山頂には、すでに人は少なく、また思ったよりも風が弱く、登頂を喜び合う。今回、参加せず、東京でみんなの無事を心配しているMTさんに電話を入れ、喜びを分かち合う。

山頂付近には、エゾツガザクラやイワヒゲが咲いていた。また、礼文島や樺太と共に、北海道本島もよく見える。大雪山は、雲がかかっていたが、暑寒別岳方面はよく見えた。ここは利尻山の北峰だが、南峰やろうそく岩、そして沓形コース方面もよく見えていた。

ほぼ予定の時間とは言っても、視覚障害者の人は下りに時間がかかる。離れがたい山頂をあとにして、下山にかかる。このコースは、足下が悪いが、落ちてどこまでも転がるようなところがないのありがたい。Oさんをサポートしながら、できるだけ滑らないように、慎重に下

る。しかし、下りは長い。ようやく9合目にたどり着き、ガレた道から解放されたが、Mさんたちが待つ避難小屋まではかなりの時間がかかった。

避難小屋の手前で、ノゴマが梢で軽やかなさえずりと美しいのど元の赤色を披露してくれた。できるだけ近づいて、写真やビデオ撮影をさせてもらう。

避難小屋で、Mさんたちと合流し、携帯トイレで用を足したりし



喉の赤が美しいノゴマ

てから、下山にかかる。どこまでも続く長い下りを、サポートを交代しながら下る。6合目が近づく頃、頭上にヘリコプターが近づいてきた。何かあったなと見ていたら、下で赤い布を振る人が見えた。すると、ヘリコプターからすると二人の人が降りてきた。横を通り過ぎるとき少し見ると、左足を怪我しているようで、足を固定していた。

私はNTさんのサポートをしながら、先頭を下ってきた。しかし、後方グループとの差が開いたため、5合目で待つ合流しようと思った。後方グループに、その旨伝え、彼らは、今5合目にいるという。私たちのいるところは標高約600m。昭文社の地図では、5合目は約500mだ。後方グループは先頭を追い抜いていないから、どう考えてもおかしいと思ったが、後方グループは5合目の看板の前で電話をしているという。はっきりしないので、4合目で合流することにして、下降を開始する。どうも、私たちは5合目の看板を見落としてしまったようだ。それにしても、地図と現地の違いは困ったものだ。

4合目で、女性陣に先に下ってもらい、私が待つ、後方グループと合流する。途中、甘露

泉で水を飲んだり靴を洗ったりして、登山口の北麓野営場で、民宿の車に乗せてもらい、利尻富士温泉に直行した。

7月3日

疲れ切った昨夜は、みんなほとんど飲まずにぐっすり休んだ。今日は、利尻島から礼文島に渡り、桃岩展望台コースを楽しみ、ユースホテルの桃岩荘におじゃまする予定だ。

香深港には、桃岩荘の人が待っていて、私たちの荷物を桃岩荘まで運んでくれる。海鮮丼や三色丼を食べ、バスで礼文島の最も南にある知床に向かう。知床から幅の広い道を緩やかに登りはじめる。登るにつれ、たぶんレブンソウだと思えるマメ科の花が咲いていた。それと、こちらのウグイスは、本州のウグイスと少し違う鳴き方をしていたようだ。桃岩荘の人から貸してもらった案内図に書かれていた「秘密の花園」に行ってみる。ここは、イブキトラノオが



イブキトラノオと利尻山

一面に咲き、素晴らしいところだ。レブンシオガマやエゾカンゾウが咲き、ぜひ見たかったレブンウスユキソウも咲いていた。また、鳥は、ノビタキやノゴマ、コヨシキリが見られた。

秘密の花園を過ぎ、元地灯台を過ぎると、左側に日本海がよく見える。右手には利尻富士が聳え、素晴らしい展望だ。そして、私たちの周囲やこれから向かう方向は、高山植物が咲き乱れ、素晴らしい草原が広がっている。レブンキンバイソウやエゾスカシユリ、ハマナス、コウリントンポボなども咲いている。



高山植物の咲き乱れる礼文島に行く

桃岩荘の案内図に書かれていた大倉山から、桃岩荘に向かって、大声で叫ぶと、旗を振って大きな声でコールが返ってきた。ここから、アッ



レブンウスユキソウ

ブダウンを繰り返しながら、桃岩の展望台まで、お花畑の中を行く。展望台で、駐車場のトイレに行くグループと近道をするグループに分かれて下る。私は、近道を来たが、待っている時間が寒くてたまらなかった。

トイレ組が帰ってくると、近くにセンダイハギが咲いているというので、見に行くことにする。

合流地点から、さらに下り、車道に下りて、礼文島に一つ



チシマイワブキ

しかないというトンネルをくぐって桃岩荘に向かった。

桃岩荘では、「ただいま」と言って中に入る。働いている人たちは、「お帰りなさい」と言って迎えてくれる。

宿舎の中で、いろいろの周りに集まって派手な館内の案内を聞く。夜は、ミーティングだが、歌と踊りの普通では味わえない楽しいものだった。館内禁酒と言うことで、飲めないことだけがつらかったが、とても暖かみのあるユースホステルだった。



桃岩荘から見た日本海に沈む夕日

日の入りの時間、ミーティングが中断されて、みんなで外に出て見る。私とYさんは、日が沈む時、水平線に沈むのではなく、水平線の上にある空や海よりも濃い確かなラインを引く地平のようなものを見た。桃岩荘の人は、ここからロシアが見えたという話は聞いたことがないと言うが、帰って地図を見てみると、ロシアだったはずと確信した。

夜、寒かったが外に出て、西の空に輝く木星と天頂に横たわる天の川、その中を飛ぶはくちよう座、そしてカシオペアと北極星、北斗七星

などがとてもよく見えた。また織姫星のこ座のベガが輝き、北斗七星のひしゃくの先をのぼしたところにあるオレンジ色に輝く1等星アルクトゥルスもひとときわ明るく輝いていた。

7月4日

今日は帰るだけだが、桃岩荘で紹介していただいた元地にある地元の漁師さんがやっているうに丼を食べられる店に行く。昨夜アルコールを飲めなかった反動で、みなさん朝からビールを飲み、多くのつまみを頼んだため、店の人もビックリしていた。しかし、うに丼はやはりうまい。

うに丼を食べたあとは、地藏岩を見に行く。海岸から一気に1枚の手のひら状の岩を突き立て、もう片方の岩は山からすくと落ちて、両方の岩が手のひらを合わせているように見えるところから、地藏岩と名前が付いたらしい。

元地のバス停に戻り、瑠璃海岸で瑠璃を探したり、売店で買い物をしたり、花の写真を撮ったりして、バスの時間を待つ。

香深に着いて、桃岩荘に運んでもらった荷物を受け取り、フェリーに乗り込む。フェリーが動き始めると、桃岩荘の人たちが、昨日と同じように、みんなで並んで歌と踊りで見送ってくれた。4日間のいろんな思い出を詰め込んで、最北の島をあとにした。

## 塔ノ峰(7月10日)

参加者 会員(障害者4名、健常者14名)  
会員外(障害者1名、健常者4名)

今日は、曇り後雨の予報だが、風祭駅は、ま

だ青空が覗いていた。

コンクリートの車道、水道施



ヤマユリ



設目指して歩く。車道の脇には、ホタルブクロやヤマホタルブクロが咲いているが、太陽の日射はものすごく暑い。できるだけ、日影を探しながら歩く。

水道施設の手前で、ヤマユリが一輪咲いていて、気持ちを和ませてくれた。

水道施設を過ぎても、しばらくは車道歩きが続く。登山道に入ると、そこは杉林だった。緩やかな登りを、大汗をかいて頑張る。今回、実習で参加した千葉大のKさんにも、視覚障害者のサポートを経験してもらおう。最後の登りで、山頂に到着。山頂手前で、ぽつぽつと降り出した雨は、少し強くなったが、まだ木々が遮ってくれていて、体にはほとんど当たらない。

午前中の日射で、少し体調を崩した初参加のOさんが少し遅れたが、山頂に到着し、昼食休憩とする。

山頂をあとにし、箱根湯本の温泉とビールを楽しみに下る。流れ出た汗のため、すでに体は汗くさい。早く温泉に飛び込みたいものだ。急な

## 白馬岳(7月24日～25日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

7月24日

昨晚のうちに白馬駅に着き、ペンションに素泊まりさせてもらった。駅からペンションまで、そして朝はペンションから猿倉まで送迎してもらい、とても気持ちの良いペンションだった。

猿倉について、登山届けを提出し、雪渓の落石に注意するよう、アドバイスを受ける。今日は、写真教室ということで、写真撮影の基本的なことを簡単に説明し、出発する。

林道に出て少し歩くと、目指す白馬岳がやや霞がかかった状態で、高く聳えていた。水蒸気が多いようで、午後には雨が降り出さないが、



塔ノ峰山頂にて

道を下り、阿弥陀寺に到着。ここには、おいしい水が待っていた。あじさいもたくさん咲いて、美しい。少し遠くで、オオルリのさえずりが、聞こえた。車道の脇に、ヤマユリが6個ほど花をつけて、強力な自己主張をしているようだった。

箱根湯本駅のすぐ上にあるかっぱ天国で、温泉に入って汗を流し、ビールで乾杯。暑さが厳しかった低山ですが、温泉とビール、そして参加した仲間に癒されて、楽しいひとときを過ごすことができました。

少し心配となる。林道の脇には、エゾアジサイやタマガワホトトギス、オオバミゾホオズキ、レイジンソウが咲いていた。シシウドは、大きく背丈が3mくらいありそうだ。



真夏でも寒い大雪渓にて

白馬尻(はくばじり)に着くと、キヌガサソウが迎えてくれる。モミジカラマツやカラマツソウも咲いていた。雪渓に着き、みなさんは軽ア

アイゼンとスパッツを付けて、歩き始める。今日は、この夏最高の人出だそうで、追い抜く人を待っていると、いつまでたっても進めない。適当なところで歩き始めるが、とにかく人が多い。雪渓は、長蛇の列だ。

雪渓の上は、冷たい風が吹き、立ち止まっていると寒くなる。踏み後をたどって登るが、やはりこれが一番の省エネ登山だ。ただ、Kさんの体調が少し良くないようだ。それでも、ゆっくりと登っていく。ようやく雪渓が終わり、登山道に着くと、登山者を監視したり整理したりする人がいた。

アイゼンを外し、登りはじめると、クルマユリ、ミヤマキンポ



ハクサンフウロ

ウゲ、ハクサンフウロ、ミヤマクワガタ、ミヤマタンポポ等が咲き乱れている。岩の上には、チシマギキョウがきれいに咲いていた。避難小屋を過ぎると傾斜が落ち、お花畑の中を歩くよ



チシマギキョウ

うになる。ミヤマキンポウゲやシナノキンバイ、カンチコウゾリナなどの黄色系のお花畑、そしてハクサンフウロのピンクのお花畑が美しい。イブキジャコウソウやミネウスユキソウ、テガタチドリ、イワギキョウ、ミヤマアケボノソウなども咲いていた。

14時35分、宿泊予定の村営宿舎に到着し、生ビールで乾杯！！夕食は、小屋の受付の人から進められ、ディナーコースとする。私も、

ツェルト泊まりだが、晩ご飯だけは、誘惑に負けてサーロ



イワツメクサ

インステーキのディナーコースにした。

7月25日

朝、2時半頃はまだ星空だったが、3時半に起きてみると、すでにガスの中だった。朝食前の4時に、小屋を出発して、山頂を往復する。約40分で山頂に到着し、御来光を待ってみたが、期待できそうになく、記念写真を撮影して、5時10分に山頂をあとにした。ガスの切れ間から、入道雲が見える。通常の良い夏山とは、全く違う光景だ。遠くで雷の音も聞こえる。雷がこちらの方に来ないか、少し心配になる。



白馬岳山頂にて

小屋に戻って朝食を取り、下山にかかる。時折、ガスが切れ、杓子岳と鑓ヶ岳が少し姿を現すが、山頂も見えず、すぐに姿を雲の中に隠してしまう。

避難小屋を過ぎ、雪渓にかかり、軽アイゼンを付けている頃、ぽつぽつと雨が降り出した。雨具を付けず、雪渓を下っていると、次第に本降りになってきた。雨具の上だけを来て、下っていく。長い下りを、滑ったり、みなさんの様

子を見たりしながら下っていくと、雨は土砂降りとなり、激しい雷雨へと変わっていった。雪渓の上でも決して油断はできないが、稜線にいなかったことにホッとす。それでも、激しい雨は容赦なく体をたたく。みなさんに異常がないか上を見たり、下を見たりしながら下っていく。

雪渓が終わり、登山道を下るが、そこは濁った水が激しく流れていた。靴の中は、もうたっぷり水が入って、ぐちょぐちょいう。沢を下るように、水流の中を歩く。ちょっとした岩の上から、水が滝のようになって落ちている。その水を体に浴びながら下る。

## 唐松岳(8月7日～8日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

8月7日

昨日の晩、ムーンライト信州に乗って、朝、白馬到着。白馬岳の時に利用させていただいたペンションのご主人が車で迎えに来てくれた。ペンションについて、昨晚早く来て泊まったTHさん、TBさんと合流し、ペンションの朝食をテラスでいただく。さらに、山で食べるようにと、朝もぎのトマトをたくさんいただいた。朝食のあとは、さらに八方のゴンドラ乗り場まで送っていただく。

ゴンドラ、リフトと乗り継ぎ、八方池山荘まで標高差約1,000mを、一気に登ってしまう。リフトの下には、植物の名前を書いた案内板があり、多くの植物の予習ができた。

緩やかに登る登山道を、ゆっくりゆっくり登りはじめる。高山植物たちは、最初から、これでもかこれでもかととぎれることなく、咲き誇っている。

カライトソウ、ハクサンシャジン、シモツケソウ、ワレモコウ、タテヤマウツボグサ、シロ

ようやく、白馬尻の小屋に着き、休憩する。雨もようやく小やみになり、ほぼ止んできた。今まで激しく水の流れていた登山道は、おとなしい水が、ちょろちょろと流れ落ちる程度に変わっていた。相変わらずぐちょぐちょの靴で下っていく。登山道からようやく林道に出て、時折日が差す中を下り、猿倉に到着。ここで、下山の乾杯をし、昼食を食べて、23日の夜泊まったペンションの方から、迎えに来てもらい、車で白馬駅の近くの温泉に運んでもらった。温泉に入り、さっぱりとして、スーパーあずさに乗り込み、熱帯夜の関東に向けて帰っていく。

バナクモマニガナ、タカネセンブリ、タムラソウなどなど、次から次へと現れてくれる。初秋



の花は、なぜか紫や青系の植物が多いようだ。

八方山ケルン、第2ケルン、八方ケルンと過ぎ、八方池の上にある第3ケルンで休憩。ガスっていて山が湖面に映らないため、池には下らない。休憩していると、ベニヒカゲが私の腕に止まって離れようとしな。みなさんの写真撮影のモデルになってしまう。

さらに、下の樺を歩き、上の樺の急な登りを頑張ると、雪渓に飛び出した。ARさんに、雪に触れてもらおうと雪渓まで行く。雪を見ると嬉しくなる私は、つい上まで登って、滑りを楽しんでしまう。

雪溪の脇の急な斜面を登ると、ようやく丸山ケルンだ。



タカネイブキボウフウと八方池

不帰嶮(かえらずのけん)が見えてくる。二重山稜のようなところに来ると、チングルマ、ミヤマキンバイ、コイワカガミなどが咲いていた。オヤマリンドウやミヤマリンドウも咲いている。クモマミミナグサは、リボンのような可愛い花をたくさん付けて、自己主張しているようだ。

しばらく行くと、雨が降り出したが、カッパを着ると止んでしまう。

最後の難所、稜線直下のトラバースは、鎖場がある。疲れが出て来る頃だから、慎重に通過する。ようやく小屋に着き、ホッと一息。小屋の受付をすませ、私はテントの受付をして、みんなで生ビールで乾杯だ。

今日は、これで終わりだと思っていたが、T Hさんが、明日どうなるか分からないので、これから山頂に行きたいという。みんなも賛成し、山頂を目指す。小屋の脇には、コマクサやトウヤクリンドウ、クロトウヒレンなどが咲いていた。

山頂は、大勢の人でにぎわっていた。どうもみなさん、ブロッケンが見えると喜んでいる。私たちも見てみるが、なかなかはっきりしたものが現れない。そうしているうちに、大勢のグループは下に下り



ブロッケン現象

ていった。すると、ブロッケンは、それを待つ

ていたかのように、くっきりと長い時間現れてくれた。

小屋に戻ると、ガスが晴れて、剣岳や五竜岳が顔を出してきた。大空のキャンパスに自由奔放に見事な形を描く雲は、残照と相まって、色を変え、形を変えて楽しませてくれた。唐松岳の北側にある低い位置の太陽が唐松岳に当たり、唐松岳の上空にある雲に山の陰を映している。山にいなければ決して出会うことのできない光景に、しばし見とれる。

日が沈み、私はみなさんと別れテントに向かったが、テントの前をオコジョがちょろちょろと走り回っていた。何とか、ビデオにおさめることに成功！！ ラッキーでした。

夜は、満天の星空。私は、テントの中から顔を出し、「テントの中でも星見はできる～」と、ゆったりと流れる天の川と、翼を広げて飛ぶはくちょう座を楽しみました。

8月8日



雲間から見えた御来光

明け方になると、オリオン座やスバルが顔を出し、冬の星座になる。東の空には明けの明星が輝き、白んできた空の下を、再度山頂に向かう。

太陽は、薄い雲の帯の中に顔を出した。その色は、普段の金色と違って、真っ赤だった。そして登るにつれて金色に。

山頂からの展望は、時間が経つのを忘れさせてくれる。いつまでもここにいたいという声も上がる。剣岳がうっすらと赤く染まり、それに続く立山、薬師岳、さらにダイヤモンドコース

の山々、そして五竜岳のすぐ右手には、



朝の唐松岳山頂にて

天を突く槍ヶ岳が強く自己主張している。そして穂高の山々も見えている。手前の五竜岳は、朝の斜光線を浴び、陰影を作ってどっしりと佇んでいます。

その右には、昨年登った針木岳や蓮華岳が、遠く見える。目を北に転じると、不帰嶮から大きくせり上がった天狗の頭、そして白馬鑪が見え、その左には日本海の海岸線も見えている。

北東方面には、遠く、頸城の山々や戸隠が見え、南の方に向かって浅間山、八ヶ岳、富士山、南アルプスなどもうっすらと見えていた。

## 湯ノ丸山(8月21日～22日)

参加者 会員(障害者6名、健常者13名)  
会員外(障害者1名)

8月21日

池袋から高速バスで、東部湯ノ丸で下車し、今日泊まるロッジの方に迎えに来ていただく。ロッジについて昼食を取らせていただき、曇り空の中を出発する。

少し傾斜があるが、スキー場を登っていく。日当たりの良いスキー場は、いろんな花が咲いている。ワレモコウやアザミ、マツムシソウなど次々に現れてくれる。久しぶりに山に登る人

名残惜しい展望をあとにして、小屋に戻り朝食を取り、下山にかかる。明け方は素晴らしい天気だったが、すぐに雲が湧いてきた。丸山ケルンを過ぎ、残雪のところ、また一遊び。今回は、尻にビニール袋を敷いて滑り、みんなで楽しんだ。

下の樺を過ぎると、八方池が見えてきた。青空を映して、池の色が青くなっている。池に映る白馬三山を見れるのではないかと期待が高まる。

しかし、八方池に着いた時は、三山にガスがかかり、山はほとんど見えなかった。それでも池の中には黒サンショウウオがいたり、湖面にはギンヤンマ(たぶん)が飛んでいた。空には、アマツバメやイワツバメが飛び交っていた。

入道雲がもくもくと立ち上がる空の下、リフトとゴンドラを乗り継いで下界の人となる。昨日、朝食をお世話になったペンションの方から温泉に案内していただき、さっぱりして特急スーパーあずさに乗り込む。山の話に花を咲かせて、時の経つのを忘れて、東京へ向かった。

もいるので、ゆっくりゆっくり登っていく。振り返ると、籠ノ登山が見える。リフトの上まで行くと、しばらく平坦な道が続き、つつじ平が右手に見える。今は咲いていないが、多くの株があるので、最盛期には素晴らしい景色が見られるのではないだろうか？



霧の湯ノ丸山山頂にて

行く手には、湯ノ丸山が見えていたが、すでに

ガスに巻かれて見えなくなった。しかし、とぎれることなく続く、高山植物を楽しみながら登る。ヤナギランやアキノキリンソウ、山頂付近になる

とイワインチンが増えてくる。岩の多くなった



登山道を登り、何度か山頂かなと思われる所でだまされたが、14時30分に湯ノ丸山山頂に到着。残念ながらガスで何も見えない。記念写真を撮影して、早々に下山にかかる。滑りやすい道に、みなさん神経を使って下ってくる。下り着いた烏帽子岳とのコルは、ヤナギランがたくさん咲いて美しかった。

傾斜のなくなったトラバース道を歩き、キャンプ場を過ぎ、地蔵峠に到着。湯ノ丸ロッジから休暇村のお風呂まで送っていただき、汗を流す。ロッジに戻って、楽しい食事と宴会の始まりです。

8月22日

今日も、雲が多いながらも、昨日よりは雲が薄そうでした。ゆっくりとロッジを出発して、見晴岳を目指します。途中、展望の良いところで、北アルプスの穂高連峰が見えました。しかし、遠くの山の展望は、ここまででした。また、雲の中に入り、視界の利かない中を歩きます。岩が出始めた頃、見晴岳に到着です。ここには、テレビのアンテナでしょうか？ 大きなアンテナが立っています。少し休憩して、下りにかかる。コマクサの咲く場所を保護する柵がありました。柵の中を見てみると、ほとんどのコマクサが花を落としていましたが、まだ3株ほどが花を付けてくれていました。

アザミやワレモコウの咲く道を下り、三方ヶ

岳まで行って昼食にします。遠くの展望はありませんが、池ノ平の湿原が見える良い場所でした。そして、いよいよ池ノ平に下ります。早速、ヤナギランの群落が見れました。行き止まりになっていますが、鏡池の方に立ち寄ってみます。静かな湖面は、周囲の山を映していました。



そこから一旦戻って、池ノ平の湿原を一周します。ワレモコウやアザミ、マツムシソウ、ミネウスユキソウ、アキノキリンソウなどの群落が次々に現れ、目を楽しませてくれます。大きな岩がいくつも顔を出した日本庭園風のところを過ぎ、兎平への道に近づく頃、ヤナギランの大群落が待っていてくれました。ピンクに染まったその一面は、あまりにも華やかで見とれてしまいます。記念写真を撮ったりしながら、その美しさを心ゆくまで楽しめます。

池ノ平を後にして、クマザサの道を兎平に向かいます。兎平からは、車道を避け、山道を地蔵峠目指して下ります。ポツポツ来ていた雨は、この頃から連続して降るようになりました。でも、樹林帯に入っていたため、あまり苦にならず、そのまま歩いて、地蔵峠のロッジに着きました。40種類のソフトクリームを売っている店があったので、ソフトクリームを食べたい人たちは、そちらに道草に行きました。ロッジに帰ると、またコーヒーやお茶をいただき、ホッと一息つくことができました。そのあと、ロッジの車で湯楽里館(ゆらりかん)まで送っていただき、風呂に入ってさっぱりし、また高速バスのバス停まで送っていただき、池袋に向けて

帰路につきました。湯ノ丸ロッジの方には、本

当にお世話になりました。

## 苗場山(8月28日~29日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

会員外(障害者1名、健常者1名)

8月28日

国境の長いトンネルを抜けると青空が広がっていた。みんなから歓声上がる。越後湯沢でAさんと合流し、タクシーに乗り込み、和田小屋まで入る。和田小屋までは、タクシーでなければ入れないので、30分得をした感じだ。

和田小屋から、スキー場の脇の、石が多く滑りやすい道を登る。地図には湿気が多い道と書いてあるが、確かに滑りやすい。登山道は、沢から離れ尾根に向かって登っていく。尾根に出たところが下の芝だ。ここで少し休憩。イワシヨウブやオヤマリンドウがたくさん咲いていた。今回の山行では、とにかくオヤマリンドウが多かった。

右手にリフトを見ながら、中の芝に向けて登る。中の芝で少し早い昼食にする。ちょうどこの付近から上は、雲の中に入るようだ。上の芝を過ぎると少し平坦になり、見落としてしまいそうな神楽ヶ峰に着く。AさんとMさんは、見落としてしまい、先に下ってしまったようだ。登山道には、コゴメグサがたくさん咲き、一面を白く染めているようだ。

AさんとMさんに待っていてもらって、雷清水で休憩し、自分の水筒と共に、遊仙閣行きと書いたケースに入ったペットボトルに水を汲んで歩き始める。小屋行きの2リットルの水が追加されたザックは、急に重くなった。しかし、先頭グループはどんどんペースが上がる。時折、雲の下に日を浴びた山肌が顔を出し、貴重なものに出会えたような感動を与えてくれる。山頂

への登りは、覚悟していたが、どんどん急になっていく。



苗場山の山頂にて

急登を頑張ると、突然平原に出る。ここが頂上湿原の一角だ。ガスっていて、遠くまで見えないが、木道の脇には、池塘が点在している。苗場山と書かれた看板の前で記念写真を撮り、遊仙閣に入る。名前に似合わず、素朴な小屋は親しみが湧く。ひょんなことから小屋のご主人から名刺をいただくことになり、そこに書かれた名前を見て、もしかして「谷川岳ヒゲの大将」こと高波吾策さんの息子さんですかと聞いたら、その通りだった。親父さんのことを知っていたので喜ばれたのか、一升瓶を出していただいた。夕食のあと、吾策さんのビデオを見せていただいたり、山の歌を歌ったりしながら消灯までの時間を楽しんだ。

8月29日

朝、外を見ると、ガスが切れて、滝雲の流れる谷川連峰が見えていた。朝日も時々顔を出し、雲の切れ間からは青空も見えた。白砂山方面は雲の中だが、苗場山の頂上湿原は、一面見渡すことができる。谷川連峰や白砂山などに囲まれて、苗場山には雲がかからなかったのだろう。



遊仙閣の前でご主人夫妻と

朝食のあと、小屋のご主人と一緒に小屋の前で写真を撮り、下山にかかる。木道を歩きながら、頂上湿原に点在する池塘を楽しむ。鳥甲山の向



美しい頂上湿原を行く

こうに北アルプスの山肌も見えていた。気持ちの良い湿原を過ぎ、樹林帯の滑りやすい大きな石がごろごろするところを過ぎると、また湿原に飛び出す。ここから、和山への分岐を分けて、小赤沢方面への急斜面を下る。トラバース気味に急な下りが続く。所々で、鎖場も現れ、慎重に下る。途中、シラヒゲソウが咲いていた。こ

れは、ナデシコの仲間ではなく、ユキノシタ科だった。

七合目には、ヒカリゴケが見られると聞いたので、楽しみにしていたが、見つける



シラヒゲソウ

ことはできなかった。

急な下りも終わり、次第に緩やかになってきた。今回、初参加の17歳N君に、Mさんのサポートをしてもらった。何十歳も年上のMさんだが、しっかりとサポートをしていた。

道は傾斜は落ちたが、まだ木の根の大きな段差などがあり、視覚障害者の方にとってとても歩きにくい。なかなかサポートは厳しい。それでも、N君は、頑張って1時間ほどサポートしてくれた。四合目の水場で休憩し、さらに下り、ようやく駐車場やトイレのある三合目に到着。さらに、登山道を下り、沢を渡って林道に出た。ツリフネソウやゲンノショウコがたくさん咲いていた。

舗装道路を下り、小赤沢川を渡って、小赤沢温泉の楽養館で赤い温泉に入って汗を流し、越後湯沢から来てもらったタクシーに乗り込み、越後湯沢の駅までぐっすりと眠った。

### Iさんの山日記（苗場山にて）

静けさの中に秋の気配が感じられる  
霧が晴れて変化に富んだ湿原が現れた  
人々が汗水流し手がけた田地のように  
いく世紀も侵蝕してきた地層の絵模様にも見える  
壮大さは尾瀬や雨竜沼に比するものでないが  
力強い調和のとれた美しさである  
自然がかくも気高いものであることに心を打つ  
遠く大空に滝雲が湧き上がり太陽が赤く映え  
苗場山に神秘的な朝が訪れた

記：I



## 標高 4,500m をめざせ！！ ( F さんのブータントレッキング報告 )

2 回目のブータン旅行は、ブルーポピーとノヒネダイオーに逢うためだった。ブータン王国唯一の空港パロに降り立って、胸はうれしさを一杯だった。

パロの町に一泊して、あとはテント 5 泊の山旅だった。馬 10 頭、馬方 10 人、ガイドと料理人 2 役のスタッフ 5 人に、私たち 13 人のトレッキングツアーの始まりだった。パロが標高 2,000m くらいあるので、標高差 2,000m を 3 日かけて歩く。ゆっくり山行のはずだった。花も沢山咲いていて、小鳥たちも沢山いて、あっちにもこっちにも気を取られながらの楽しい登りだった。タカネバラ、コビトシャクナゲ、一面に美しい花木があり、青マツ、トウヒがその中に混じった林の中を入ったり、ナキウサギのようなネズミに出会ったりした。2 泊目の 3,800m テントまでは元気一杯だった。2 日目の谷筋に沢があり、はじめてのブルーポピーを見る。その谷を埋めつくしているのは、桜草の原種で、九輪草の花が黄色になったようだった。まるで一面の菜の花畑のようだった。そんな沢をいくつも超えた。

草原に出た。まるで九州の草千里のようだった。白や黄の花を付けた草が一面に広がる。ヤク ( 牛のような家畜 ) の放牧地になっていて、沢山のヤクがのんびりと私たちをじっと見送っている。ブータンの人たちが家族で夏の間だけヤクの放牧のために山に登ってきているのだ。彼らの石室のような家が点々と見えてきた。だんだんと足が出にくくなり、息苦しさが増してきて、吐き気と頭痛に悩まされはじめる。皆のペースが一段と遅くなり、この日の行動時間は 12 時間になってしまって、薄暗くなる頃、やっとテントにたどり着いた。

夕食は何も食べられず、水分だけでテントに倒れ込むように横になる。まさかの高山病。翌朝も何も食べずに、朝 8 時に出発する。アムジョモ峰 4,500m の山頂はすぐそこに見えている。ゆっくり、ゆっくり登って、またブルーポピーに出会えた。息の苦しさで頭がふらつく感じが強くなりながらも山頂目指して登った。沢があり、岩のゴロゴロしている所をよじ登り、心の中でもう少しだ、もう少しだと思い、2 ~ 3 歩行ったらハアハア、また 2、3 歩登ってはクラクラしながら、一步一步登った。山頂はすぐそこに見えている。もう少しと思っている時に、リーダーから下った方がよいと注意された。自分には分からなかったが、顔色が悪くて唇の色が白くなっているようだ。はってでも行きたい所だったが、下山することにした。ガイドが一人付いてくれて、ゆっくりと下った。ノヒネダイオーが岩場に見える。みんなよりは早くにテントに戻り、横になっていることにした。4,200m のテントにも 1 泊して、私一人、馬に乗っての下山となってしまった。怖いような楽しいようなはじめての乗馬であった。1 時間くらい下った所で、みんなと合流して、自力で下ることになる。標高が低くなれば、体もどんどん楽になった。

ブータンは、九州くらいの広さの国土で、60 万の人口。平地はほとんどなく、一つの村に水道が一つか二つしかなくても、ゆったりニコニコとした人たちで、顔立ちも背丈も日本人によく似ている。残りの日数は、楽しい観光の日々だった。寺院には役所も裁判所も一緒にある。寺院はとても美しく、ブータン人の信仰心の深さを感じた。往復ともタイのバンコクに 1 泊ずつして、タイ式マッサージをしてもらった。こうして 12 日間の長いような短い旅は終わった。

記 : F

## 自分のできること

メーリングリストの意見を読んで、自分の出来ることで参加したいとあらためて思いました。さて、私の出来ることってなんだろう。

アルプに入るまでは、手話を習ってボランティア活動することが私に出来ることなのかと思っていました。そうではないことを痛感しました。

一緒に歩く、一緒に笑う、語り合い、歌を歌い、そして一緒に酒を飲む。

アレレ・・・？

こうして思いつくままに書いていけば私が普通にしていることばかり。そうなんですよね、肩肘張らずに一緒に楽しもうと思いました。みんながそんな考えでいれば、障害者差別禁止条例をつくらなくてもいいのにね。

アルプの中で私もお手伝い出来るように参加をなるべく多くして、山の歩き方などを勉強したいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

記：N

## 各種報告事項

### 登山装備表作成(夏山用及び秋山用)

初心者の方向けに、登山装備表を作成しました。まずは、夏山と秋山用を作成しました。登山装備も日進月歩ですので、内容がすでに古いものなどもあるかと思えます。またちょっと違

うのではないかと思われる部分もあるかと思えます。そのような際は、事務局までご連絡をお願いします。

### ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、8月末日現在約11000のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。また、各種情報も迅速に流しています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士で、

メーリングリストも運営していますので、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

## 今後の計画

### 2004年度活動計画

10月以降の事業計画を別紙に掲載しています。なお、八千代市市民活動サポートセンター祭りに出席(出品)する関係などで、日程を

一部変更させていただいていますので、よろしくをお願いします。

また、ふれあいハイキングは日程を11月1

4日(日)に変更させていただきました。詳細計画は追って連絡させていただきます。

### 気象講習会

先にご連絡したとおり、気象講習会を開催いたします。講師の方から楽しい話をお聞きすることができますので、時間のある方はぜひご参加ください。講習の内容は下記の通りです。

#### 【天気予報の裏を読む】

登山をはじめアウトドアスポーツ、旅行などは、天気や気温の影響を受けることが多い。よい天候に恵まれてこそ、1日のスケジュールを楽しく安全に過ごすことができる。そこで、天気予報の上手な利用法、天気予知に役立つ話題を集めてみた。

##### A・天気予報に強くなる

- イ) 予報の本音を探る
- ロ) 降水確率何%で雨具が必要か
- ハ) 世界で一番難しい関東&東北地方の太平洋側

##### B・登山に役立つお天気ミニ知識

- イ) 登山とプロポーズ(気圧と自律神経の関係)
- ロ) 天気諺「女(男)心と秋」の検証
- ハ) 飛行機雲は高層気象の生情報

##### C・秋から初冬にかけて登山に怖い注目天気図

- イ) 快速台風は暴風を加速する
- ロ) 台風と秋雨前線は大雨や長雨をもたらす
- ハ) 木枯らし1号(寒冷前線)は寒波を呼ぶ

### 八千代市市民活動サポートセンター祭り

11月3日に、八千代市市民活動センターで、サポートセンター祭りを開催します。山仲間アルプも、写真の出展などで参加します。詳細が決まりましたら、追って連絡させていただきます。

### 感想やご意見を募集中です！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局までお寄せください。また、個人的にこんなところに行ってきたよとか、最近こんなことを思っているなどのご意見を随時募集中です。事務局まで、ぜひお寄せください。

### 個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

## 会員情報

新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。詳しくは、会員名簿をご覧ください。

正会員 2名

賛助会員 1名

## 編集後記

・理事長のつづやき

9月の声を聞くと花や雪渓も少なくなり、紅葉にはまだ早く山はとても地味な姿になります。人の姿も減りますが、この季節は山に生きる植物にとって、とても大切な実りの秋になります。山が本来の姿を取り戻す時かも知れませんが、そんな静かな山を楽しみなが

ら、次ぎにくる錦秋の山々を楽しみに待ちたいですね。今年の夏は暑かったので、紅葉も美しいのではないのでしょうか？ 厳しい冬を迎える前の美しい山々に逢いに行きませんか？

・表紙の「風のささやき」周辺の絵(鳥)は、ジョウビタキです。そろそろ、北の国から渡ってくる季節ですね。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで  
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208  
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝  
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。  
自然は、誰に対しても平等だよ！！

